

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

現行学習指導要領の下ですべての受験者に対して実施される共通テストは今年度が最後である。出題内容は、学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいや内容におおむね則しており、いわゆる難問・奇問とされる問題はみられず、高校生が学習した知識や技能、涵養した思考力や判断力に基づき、考えて解いていく工夫が施された標準的な問題である。問題作成に当たっては、大問ごとにリード文などをおして大間で問う分野や領域を示し、基礎的・基本的な知識の確認と、習得した知識や技能を用いて思考力や判断力を働かせてその分野や領域への理解を完成させる工夫が求められるだけでなく、一定の平均点を確保し、試験実施時間内に解き終わることや高等学校での学習への影響を考慮するとともに、これから大学に進もうとする有為な若者へのメッセージを織り込むことなど、多くの努力を要したものと推察する。ここでは後期中等教育の現場にあって公民科を与える立場から意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

高等学校公民科「倫理」及び「政治・経済」での学習を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の確認から、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて解く問題までが、「倫理」から大問4、小問16、「政治・経済」から大問3、小問16、出題分野の偏りなく出題されている。配点は「倫理」と「政治・経済」で50点ずつであり、二つの科目内での出題分野の偏りはなく、考えて解く問いの配点を重くするなど工夫されている。大問ごとのリード文などでは高校生の日頃の学び、もしくは学びの延長にある状況を踏まえた設定を工夫しており、各小問にはさらに資料やメモあるいは図表などが示され、単に基礎的・基本的な知識や技能を問うことに終わらない工夫がある。その一方で、高等学校での学びが大学での研究や真理の探究にどのように発展していくのかを見通す知性あふれるリード文がないことや出題者の意図とは別に単なる小問集合に見えてしまう場合があること、あるいは約42ページにわたる問題を丁寧に読み解いていった場合に試験時間内に解き終わるのか、平均点を下げるために選択肢を安易に増やすことなど、検討すべきところではないだろうか。

第1問 「倫理」から、会話文を読み、資料などを参照しながら源流思想を考える問題。

問1 ギリシア哲学が他の文化圏に継承された事例の説明の正誤を問う基礎的・基本的な知識の問い。イのイスラームが紛らわしい記述とする意見もあるが、ギリシア哲学がシーア派とスンナ派分断の原因とは考えられないだけに、正答は容易。世界史を履修していればいっそう平易。

問2 先行する思想を批判した古代思想家の確認をおして源流思想の基礎的・基本的な知識を確認する。墨子の兼愛、アリストテレスのイデア論批判、ブッダは暴力を否定し慈悲を解くという説明は正しい。アウグスティヌスは「神の国」を出現させるものとしての教会の恩寵を解き、典礼を定めた。④のみ誤文。

問3 牟子『理惑論』からの抜粋の読解を前提に大学生と高校生の会話から、インド思想の輪

廻やアートマンとブラフマンについての基礎的・基本的な知識を問う。資料自体は見慣れなくともよく読めば答えられる。

問4 イエスの思想，隣人愛と分け隔てのない愛について基礎的・基本的な知識を問う平易な問い。

第2問 「倫理」から，会話文を読み，資料などを参照しながら日本思想を考える問題。

問1 日本の神々と災害についての説明として適当なものを選ぶ問い。折口信夫の「まれびと」や柳田国男の『先祖の話』など基礎的・基本的な知識を問う。

問2 選択肢の内容からアの奈良時代は鎮護国家であるから誤文とわかり，イの空海はやや難しいものの正文とわかる。ウは正文のようにもみえるが源信は観想念仏が中心で法然に至って専修念仏となると考えて誤文と判断する。ウを誤文とするのは難しい。

問3 江戸時代の儒教について基礎的・基本的な知識を問う。正確な理解が求められた。

問4 吉野源三郎『人間の尊さを守ろう』の一節を示し，内容に合致するものを選ぶ読解力の問い。平易ながら大切な内容を問う。

第3問 「倫理」から，会話文を読み，資料などを参照しながら西洋思想を考える問題。

問1 宗教改革の影響についての基礎的・基本的な知識を問う。アはウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から誤文とわかり，ウはルネサンス期の「万能人」とプロテスタントの「職業人」とを混乱させる意図が見受けられる。

問2 カントについての二人の会話と，資料『判断力批判』から，カントの思想と抜粋部から読み取れる説明として適当なものを選ぶ問い。資料自体が難しく加えて知識も求められ，高校生には難しい。

問3 ルソー『人間不平等起源論』を読み，三人の会話からルソーの思想に迫る問い。熟読せずに「一般意志」に飛びつかせない工夫は良いが，基礎的・基本的な知識で解けてしまう。

問4 会話の読解とまとめのノートの読解から適切な表現を選ぶ読解力の問い。平易ではあるが時間を要する。

第4問 「倫理」から，会話文を読み，資料などを参照しながら青年期や現代倫理を考える問題。

問1 青年期の基礎的・基本的な知識が問われた。

問2 (1) ハイデガーの思想に関する正確な知識を問う。存在忘却や故郷の喪失など用語の正確な理解がないと判断は難しい。

(2) 資料を正確に読めれば正答は容易。

問3 会話文の内容を正確に把握していれば空所に適切な表現は入る。決して難しくはないが時間を要する。

第5問 「政治・経済」から，国家のみならず統治に係る団体・集団について高校生が調べるという場面設定から，古典の抜粋から読み取れる内容の確認，社会保障，労働，国と地方の関係，人権，団体訴訟，会社組織，臓器移植等について問う。

問1 国家の強制力についてウェーバー『職業としての政治』からの抜粋を読み，読み取れる内容として合致したものを選ぶ思考力・判断力の平易な問い。形式のみみれば国語の読解力の問いだが，資料文の読解には社会科学の理解を必要とする文章だけに「政治・経済」の問いとして成立する。

問2 社会保障の仕組みについての理解を，雇用保険と労災保険の説明を完成させることで問う財源についての基礎的・基本的な知識の問い。

問3 憲法における信教の自由や政教分離の原則について基礎的・基本的な知識を問う。

問4 消費者団体訴訟制度を導入した法改正に関する資料文から読み取れることを選択肢か

ら選ぶ思考力・判断力の問い。国語力があれば正答が得られる。

問5 株式会社について組織や責任について基礎的・基本的な知識を問う。問われた知識は、株主の有限責任，新会社法により生まれた合同会社，ステークホルダーである。平易。

問6 臓器移植法と家族についてメモを読み取り，メモから読み取れる内容として適当な文章を選ぶ思考力・判断力の問い。アの前半とイの後半はいずれも「本人が臓器提供しない意思を示している」場合の説明であるが，この重複は避けたい。国語力が問われた。

第6問 「政治・経済」から経済成長とグローバル化という講義の中で触れられたという形での経済分野の小問集合。

問1 説明文に従ってGDPを計算する基礎的・基本的な知識と技能の問い。

問2 会話文を追いながら経済指標に関する基礎的・基本的な知識を問う。平易。

問3 市場の失敗の具体例を選ぶ基礎的・基本的な知識の問い。

問4 濃度規制と総量規制の関係を理解させる問い。出題の意図を理解するのに時間を要するかもしれないが，表のデータと仮定に則して選択肢四つを当てはめて条件に合うものを探せばよい。根気よく一つずつあたれば正解に至る思考力・判断力の問い。

問5 比較優位について条件に合う人数を答える問い。三つの場合を一つずつ計算してみれば正答に至る。決して難しくはないが，思考力・判断力を伴うだけに高校生には難しいかもしれない。

問6 冷凍野菜の輸入の解禁前と解禁後の，生鮮野菜の需要曲線を選ぶ基礎的・基本的な問い。落ち着いて考えればできるが，思考力・判断力が問われるだけに高校生には易しくはないだろう。

第7問 「政治・経済」から国際社会における日本の立場と役割について問う。

問1 自然法を手掛かりにグロチウス，ホブズ及びロックの思想を，それぞれの代表的著作からの引用とともに理解できているかを問う。

問2 人口と経済情勢についての適当な組合せを選ぶ問い。グラフの読み取りと会話文の文脈から正答を得る技能と思考力・判断力の問い。平易。

問3 アジアのインフラ開発やODAについての基礎的・基本的な知識の問い。問われた知識は，中国の一带一路，アジアインフラ投資銀行，ODAと国際収支，ODAと国益の実現についてである。

問4 宇宙条約を資料として示し，後の三つの事例から条約違反となるものを選ぶ思考力・判断力の問い。

3 総評・まとめ

学習指導要領に準拠しつつ，高等学校で習得する知識・技能と習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて問題を解いていくことをとおして，これから大学で学ぼうとする受験者が身に付けるべきものの見方や考え方を示している。この科目において学習する内容から偏りなく出題され，難易度も標準的である。

4 今後の共通テストへの要望

大学入学共通テストの後期中等教育に及ぼす影響はきわめて大きい。出題内容や出題形式などは1月に実施された試験が4月以降の授業を左右することも少なくない。大学入学共通テストは来年度から新教育課程に則した出題になる。従前にも増して，一層良問の出題に心を砕いてほしい。すべての問いを解き終わって得られる教科・科目の目標やねらいの達成，大問のリードと小問の有機

的な関係、共通テストでの学びが大学や大学院での学びや研究、真理の探究につながる研究者からのメッセージなど、単なる入学試験としての性格以上の教育に関する重い役割を担っていることを十分に理解し問題作成に当たっていただきたい。大学入学共通テスト受験という経験をとおして有為な若人を育成する使命を負うのは、高等教育にある出題者の先生方も後期中等教育の現場にある教員も同じである。